

共同研究事例 V

研究者
国立大学法人東京大学研究期間
令和 5 (2023) 年度～

●背景・課題

気候変動による気温上昇が問題とされる中、高齢者の熱中症対策は重要となっています。

●研究内容

この研究では、市内の高齢者に対するアンケート調査とそのデータ解析を通じて、熱中症に脆弱な人々や環境を特定し、効果的な対策方法を見出します。また、住居内環境の実測を通じて、エアコンの適切な導入・運転方法を見出します。

●得られる効果、成果、展望

熱中症発生の軽減の推進を図るとともに、適切なエアコン使用を通じた脱炭素の推進を図ることが期待されます。

実証フィールド

市内の高齢者世帯

社会調査と環境実測による熱中症発生要因の特定とエアコンを含む実効的な対策の設計

研究概要図

① アンケート調査・解析を通じた効果的な熱中症対策

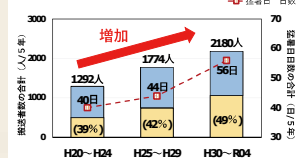
川崎市内の高齢者世帯を対象に住居内の / 屋外も含めた熱中症被害およびエアコン使用など対策実施の実態調査・解析を実施

熱中症搬送者数は増加

アンケート調査・解析イメージフロー



熱中症搬送数の内訳



② 住居内環境の実測を通じたエアコンの適切な導入・運転

市内の複数の町内会・自治会等の協力を得た上で、当該町内会・自治会内で調査協力者を求めて実施

住居内環境

?



エアコン使用室と非使用室で一定期間、室温・湿度・黒球温度などを計測

- ・住居内温度の形成要因を統計解析して定量化
- ・効率的なエアコン使用条件を抽出

2023年度実績

住居内の熱中症被害およびエアコン使用など対策実施の実態調査・解析

住居内における熱中症発生の発生要因（人間および環境）やエアコン使用を始めとする熱中症対策の実施状況などの実態を把握するため、市内在住の高齢者を対象に、アンケート調査を実施しました。また、調査票への回答結果を集計し、回答者の属性・被害の有無・熱中症対策の実施状況の3点を統計解析しました。

アンケートの発送



2024年度実績

屋外も含めた熱中症被害および対策実施の実態調査・解析、及び住居内の暑熱環境の予備実測

前年度の社会調査の結果を踏まえ、フォローアップ調査を実施し、解析に必要な情報の充実を図りました。また、次年度の住居内の暑熱環境実測を適切に実施するため、市内の世帯を対象に予備測定を実施し、実測方法などを検証しました。

環境実測に使用する機器の一部

